
ピッピピがいた宇宙

関村俊介

登場人物

山田 妹 兄

宇宙ステーション。

椅子のようなものが置いてある。

妹とヤマダが地球を見ている。

兄はちよつと距離を取ったところに立っている。

妹は感動的に喋り出す。

妹 …地球は…青かった。

山田 …パクリですね。

妹 え？何が？

山田 そのコメントですよ。

妹 パクリなの？

山田 ガガーリンっていう人の名言ですからね。

妹 いや、私、知らないから、そんな人。

山田 嘘だよ。

妹 嘘じゃないよ。偶然、同じこと言っちゃっただけだから。

山田 ガガーリン知らなきゃ、そのコメントは出てこないでしょう。

妹 本当に。知らない、ガガーリン。

山田 いやいや。

妹 マジでマジで。むしろ知りたい。何？ガガーリンっていう、あだ名の人がいるの？

山田 リンは付くけど、あだ名じゃないです。

妹 本名なんだ。

山田 本名ですね。

妹 ふーん。で、その人が言ったわけ？地球は青かった、って。

山田 まあ、本当は言っていないっぽいけど。

妹 どっちだよ。

山田 本当は言っていないけど、そういう風に言った、ってことになってるといっうか。

妹 なにそれ。

山田 よくわかんないですけど。

妹 じゃあ、パクリじゃないよね。

山田 ん？

妹 パクリじゃないよね、ガガーリンは言っていないんだから。

山田 うーん。

妹 だから、地球は青かった、は、私のオリジナルの名言ってことでいいよね。

山田 それはどうでしょう。

妹 地球は青かった。

山田 それでもやっぱり、その言葉はガガーリンのものだと思いますよ。

妹 言っていないんでしょ？

山田 言っていないんですけど。

妹 じゃあいいじゃん。

山田 どう思います？

兄 え？

山田 地球は青かった。あげちゃっていいですかね？

兄 どうでもいい。

山田 どうでもいいかなあ。

兄 そんなことよりさ、

山田 まあいいや、あげます。地球は青かった。

妹 やった。

兄 あげるのかよ。

山田 どうでもいいんでしょ？

兄 うん。でも、誰かにあげられるタイプのものじゃないから。…ちよつといいですか？

山田 はい？

兄 え？なんで普通にしてるの？

山田 え？

兄 ヤマダさん、さつき言っていましたよね？

山田 何をです？

兄 調べた結果、これが、宇宙人だって。

妹 イエーイ！

兄 イエーイじゃなくて。しかも、宇宙ステーションにきたら、何故かいた、宇宙人だって。

山田 はい。

兄 なんで無視できるの？

妹 えー？だって、喋らないし。

山田 動かないし。

兄 そうだけどき。こんなのいるのおかしいでしょ。

山田 そういうこともありますよ。

兄 あるか？

山田 あるでしょ。ねえ。

妹 あるよね。

山田 宇宙に宇宙人がいる。何もおかしくないでしょ。

兄 でもさあ。

妹 じゃあ殺す？

兄 突然、怖い。

妹 じゃあ殺しちゃう？

兄 言い方の問題じゃないよ。

妹 お兄ちゃん。嫌でしょ、そういうの。

兄 嫌だね。

妹 …え？じゃあなに？どうしたいの？

兄 どうしたいとかはないんだけど。完全に宇宙人を無視して話してるから、おかしいでしょ、って。

妹 …さみしかったんだ？

兄 どういうことだよ。

妹 や、私達が2人で盛り上がったから、さみしかったのかな、って。

兄 そういうことじゃねえんだよ。ていうか、なんでヤマダさんまで盛り上がったるんですか。

山田 だって、宇宙に来たから。

兄 あなた、添乗員ですよね？

山田 そうですけど。

兄 俺を差し置いて、盛り上がるのおかしいでしょ。

山田 でも宇宙。

兄 仕事してくださいよ。

山田 はい。

兄 いるはずのない宇宙人がいたんだよ？

妹 それがなに？

兄 もっとこいつについて話し合ったりするでしょ、普通。

妹 じゃあ、とりあえず、名前でもつける？

兄 は？

妹 名前つけよう。

兄 ペットじゃねえんだからさ。

妹 ペットみたいなもんじゃん。

兄 あのね。

山田 ごろえもん2号、に、していいですか？

妹 え？

山田 名前。ごろえもん2号。

妹 センスゼロだよ？

山田 小学生の頃に飼ってた犬の名前なんです…。

妹 あ、ごめん、センスゼロとか言っつて。

山田 いいですいいです、小学生の頃の私が考えた名前なんだから、そりゃセンスないですよ。

妹 うん。

山田 こいつを見た時に、ピンときたから。

妹 そっか。こいつはきつと、ごろえもん2号の生まれ変わりなんだね。

山田 きつとそうですよね。ごろえもん2号。まだ伯母さんの家で生きてるけど。

兄 じゃあ生まれ変わりじゃないね。だったら、3号にしたら？ていうか、ペットじゃねえから。たぶん

名前とか、もともとあるよ。

妹 でも、わかんないんだから、つけるしかないでしょ。

山田 ですよ。ごろえもん3号、で、決定でいいよね。

妹 それは、だめだね。センスゼロだから。

山田 生まれ変わりなの？

妹 生まれ変わりじゃないし。

山田 だったら、私は、もう、なんでもいいです。

妹 そしたら、私が決めていい？

山田 いいですよ。

妹 ピッピピ。

山田 ん？

妹 ピッピピにするわ。

兄 意味は？

妹 意味とかないよ。なんとなく。いいよね。

兄 いいけどさあ。

妹 じゃあ、決定ね。この話は、おしまい。

妹とヤマダは地球を見に戻る。

兄 いやいや、そうじゃなくて、どうするの？こいつ。

妹 どうするって、名前も決めだし、飼うしかないでしょ。

山田 ですよね。

兄 飼うってさあ。

山田 特に害とかなさそうだし、いいじゃないですか、何かあったら、私が責任持ちますんで。

兄 いいけどさあ。

山田 ね、添乗員がいるんですから。旅行を楽しんでくださいよ。

兄 …はい。

山田 …えっと、何の話、してたんだっけ？

妹 地球は青かった、の話。

山田 ああ、そうでしたそうでした。

ヤマダはなんとなく椅子のようなものに座る。

兄 宇宙人に座るなよ。

山田 え？あ。まあ、いいでしょ。

兄 怒るかもしれないですよ。

山田 怒るかなあ。

妹 わかんないよねえ。

山田 大丈夫大丈夫。

兄 大丈夫かなあ。

山田 やっぱりあげていいと思うんですよね。地球は青かった。

兄 なんでだよ。

山田 あげます。

妹 じゃあ、もらうね。

山田 もういいかなと思って。ガガーリンのやつと、違う意味になっちゃってるんだし。

兄 そうだけどさ。

妹 地球は、青かった。

山田 青かったけど、今は、赤くなっちゃいましたもんね。

兄とヤマダは地球を見に行く。

妹はなんとなく場所を譲って、椅子のようなものに座る。

兄 今度はお前が座るのかよ。

妹 座り心地が気になってさ。

山田 悪くないでしょ。

妹 悪くないね。

兄 やっぱり滅亡してるのかなあ。

山田 人類ですか？

兄 はい。

山田 してないでしょ。

兄 そう思いたいけど。連絡とかないんですよね？地球から。

山田 まあ、そうですけど。

妹 してないよ、絶対。

兄 なんでだよ？

妹 だって、赤くなってるだけじゃん。

兄 ん？

妹 海が赤くなっても、そんなに困らないでしょ？

兄 困るでしょ。

妹 困らないでしょ。サーファーじゃないんだから。

兄 サーフアーはそんなに困らないよ。波に乗ってるだけなんだから。色は関係ないでしょ。

妹 それもそうだね。じゃあ、誰も困らないね。

兄 いやいや。みんな困るでしょ。

妹 色が変わったただけなの？

兄 色が変わったってことは、何かヤバイことが起きてるってことでしょ。

妹 何かって何？

兄 それはわかんないけど。

妹 お前はいつもそれな。

兄 お前って言うな。

妹 何もわかんないのに、ヤバイヤバイ、って言うのな。

兄 だってさあ。

妹 いいことかもしれないじゃん。

兄 え？

妹 海が赤いのは、いいことかもしれないじゃん。

兄 例えば？

妹 海の水が全部、トマトジュースになったとかさ。

兄 それ、いいことか？

妹 いいことでしょ、私、トマトジュース大好きだもん。

兄 おかしいでしょ、海がトマトジュースって。

山田 塩味でちょうどいいでしょ？

兄 味はどうでもいい。

山田 美味しいほうがいいでしょ。

兄 美味しかったとしても、そんなの全然いいことじゃなさそうでしょ。

妹 なんで？

兄 どうしたら、海がトマトジュースになるんだよ。そんなの絶対、地球おかしくなってるじゃん。やっ

ぱりヤバイじゃん。

妹 あー。そういうことか。そういうことでヤバイと思ってるんだ。

兄 そうだよ。

妹 じゃあ、教えてあげる。海をトマトジュースにしたのは、魔法少女。

兄 なんでこんな人と一緒に宇宙に来ちゃったんだろう。

山田 あ、じゃあ、こういうのはどうです？

兄 聞いても無駄そうだなあ。

山田 金目鯛いるじゃないですか。

妹 赤い鯛？美味しいよね。

山田 そうそう。それでいっぱいなもの、海が。これいいでしょ。

兄 だから美味しいとかどうでもいいんだって。

山田 違う違う。

兄 え？何が違うの？

山田 めでたいでしょ。

兄 聞いて損したわ。

山田 あ、こういうのダメ？いいと思ったんだけど。

兄 だから、どうしたらそんなことになるんだよ。

山田 それは、魔法少女でしょ。

兄 お前もか。魔法少女なんていないから。

山田 みんなの夢を壊すなよ。

兄 いるわけないだろ、そんなもん。

妹 わかんないじゃん。

兄 わかるよ。

妹 だったら、お兄ちゃんは、宇宙人いると思ってた？

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

ピッピピがいた宇宙（おためしサンプル）

2015年11月4日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2015年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529
